

宮崎県在京経営者会議だより

第14号

宮崎県在京経営者会議
発行責任者/高山弘憲
〒104-0084
東京都千代田区二番町5-7
JP本社ビル内
TEL.03-3265-2911
FAX.03-3265-1109

会長挨拶

宮崎県在京経営者会議

会長 高山弘憲



会員の皆様におかれましては、ますますのご健勝のこととお慶び申し上げます。

当会も平成十一年の設立より本年で十七年目を迎えます。お蔭さまで会員も増え、会員相互の親睦や提携団体である宮崎産業活性化協会との事業交流により、地元宮崎との観光物産などの産業支援や、宮崎県の子弟のための求人求職の斡旋、伝統文化の普及などを、会員各位また県当局のご協力のもと、長きに亘り実践できたことに、深く感謝申し上げます。

さて皆様ご承知の通り、本県は昨年五月より河野知事陣頭指揮のもと「日本の

ひなた 宮崎県」というキャッチフレーズを掲げ、県をあげての大キャンペーンを繰り広げております。

本県の知名度・好感度を高め地域の活性化に繋げるプロモーションを展開すべく、観光物産振興や地方創生のための活動で、郷里宮崎の魅力 forcefully 発信するプロジェクトです。この活動は関西や首都圏においても展開されており、首都圏においては平成二十六年十一月に基本協定が締結された「川崎市」において「崎×崎ひなたフェア」も開催されています。

このキャンペーンを足がかりとして、これまで以上に本県の伝統文化や自然環境の素晴らしさを多くの方に認識してもらえよう、当会も会員の皆様のご協力のもと、その一翼を担ってあげたいと存じます。

ふるさとの再生は当会発足時から宿願であり、知事の方針に沿って今後とも

様々な分野において長く支援活動を継続させていきたいと考えております。

最後になりましたが、会員の皆様方それぞれのご事業のご発展とご隆盛、並びにご健勝を祈念いたしまして、措辞ながらご挨拶のこぼとさせていただきます。

知事挨拶

宮崎県知事

河野俊嗣



「宮崎県在京経営者会議だより」の発行にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

宮崎県在京経営者会議の皆様におかれましては、「日本のひなた宮崎県」の応援団として、首都圏におきまして、本県の観光や物産の振興、本県出身者への就職支援などに熱心に取り組ん

でいただくなど、日頃から温かい御支援、御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、我が国は、本格的な人口減少社会の到来や高齢化の進展、TPPの大筋合意に象徴される国際競争の激化など多くの課題を抱える中、個性豊かな魅力ある地域社会の実現に向けた地方創生の取組が本格化しております。

本県におきましても、昨年9月に策定した「宮崎県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実に実行することで、人口減少問題を真正面から捉え、子育てに適した本県の特長を生かし、地方創生のトップランナーを目指してまいります。

このような中、東九州自動車道などのインフラ整備の着実な進展に加え、国際定期航空路線「宮崎-香港線」やLCC「宮崎-関西線」の就航、大型クルーズ船の相次ぐ寄港、さらには、ミラノ国際博覧会への

出展、「高千穂郷・椎葉山地域」の世界農業遺産認定など、まさに国内外に向けて大きく飛躍する時を迎えております。

本年は、こうした成果を礎として、本県における地方創生を加速化させる年と位置づけ、「躍動するみやざき新時代」に向け、県政を前に進めるとともに、「日本のひなた宮崎県」をキャッチフレーズに、宮崎の魅力、活力、情熱を国内外に力強く発信してまいります。

このため、県では、平成28年度当初予算の重点施策として、4つの柱を掲げました。

一つ目が、今後の社会情勢変化に的確に対応できる付加価値の高い産業を創出する「みやざき新時代チャレンジ産業づくり」。

二つ目が、本県の中山間地域の生活を貴重な地域価値と捉え、確実に将来に継承する「世界ブランドのふるさとみやざきづくり」。

三つ目が、移住・UIJターンの推進や都市部との人口対流を促す「2つのふるさとづくり」。

そして、四つ目が、子どもを生み、育てやすい環境を創出する「子育ての希望を叶える県づくり」であります。こうした取組を、より効果的に進めるとともに、今後とも、皆様の声に真摯に耳を傾け、全力で取り組んでまいりますので、一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

活性化協会会長挨拶

宮崎産業活性化協会

会長 米良 充典



わが国経済は、ようやくデフレ脱却の道筋が見え、昨年は訪日観光客が増加、さらに昨年後半からは、大企業を中心に設備投資も拡大しており、将来に向けて明るい展望を持てる期待感が広がっております。
(2面につづく)

本県では、昨年3月に九州自動車道の「宮崎く大分間」が開通し、その効果から県内「道の駅」等の集客が大幅に増え、今春「宮崎く北九州間」の全面開通により、さらに交流人口が増加すると思われます。

昨年は、国際定期航空便「宮崎く香港線」・ソラシドエア初の国際チャーター便「宮崎く台湾高雄線」の就航や日南市油津港に16万トン級のクルーズ船が寄港するなど、訪日外国人旅行者が大幅増加しました。

さらに、昨年12月には「高

千穂郷・椎葉山地域」が世界農業遺産として認定され、焼き畑や棚田等による農業や夜神楽などの伝統文化の継承が国連食糧農業機関（FAO）に高く評価されました。

これを機会に農業のブランド化を推進し、全世界に向けて宮崎の「文化」「気候」「自然」「食事」を発信することで、陸・海・空のインフラストック効果が強まり、訪日外国人旅行者はさらに増加すると予測され、その受け入れ態勢を構築することが急務であると

考えております。

宮崎県在京経営者会議の皆様とは10年以上の長きにわたり交流致しておりますが、これまで「宮崎の郷土料理と本格焼酎を楽しむ会」を東京において開催していただき、本県物産品の販路を拡大するビジネスチャンスの場を提供いただき、本県経済の発展のために大きなお力添えをいただいております。

また、本県の高専学校や大学等の学生の就職につきましても、多大なご支援をいただき、心より感謝を申し上げます。

申し上げます。

今後につきましても、私も宮崎産業活性化協会は、宮崎県在京経営者会議の皆様と一致団結し、積極的な事業展開を図ることにより、宮崎の更なる活性化の一助となるよう鋭意努力して参りたいと考えております。

最後になりましたが、宮崎県在京経営者会議の益々のご発展と高山会長をはじめ会員の皆様のご活躍、ご健勝を祈念致しまして新年の挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

定期総会報告

第17回 定期総会報告

平成27年7月3日(金)、千代田区隼町のグランドアーク半蔵門で第17回定期総会が開催されました。

高山会長の挨拶のあと、総会の議事に入り、議事次第に従い、平成26年度事業報告並びに収支決算承認の件、平成27年度事業計画並びに収支予算案承認の件の各議案とも、原案どおり承認可決されました。

引き続き

懇親会となり、来賓の河野俊嗣宮崎県知事、

星原透宮崎県議会議長、崎田恭平日南市長、田村俊彦宮崎市副市長の挨拶と宮崎の経済状況等の報告がありました。

乾杯後、参加者相互の交流・情報交換等で、更なる親睦を深めました。

また、歌手のMisac hiさんが歌を披露、会場を和やかにし、盛会の内に閉会となりました。



新会員紹介

プルデンシャル生命保険(株) 副部長

上村賜一郎

●出身地 宮崎市
●趣味 ゴルフ、子育て談
●事業内容 生命保険業全般、ライフプランニングに関するコンサルティング、事業運営を強化促進する財務コンサルティング

(株)QVCジャパン
バイスプレジデント

前山 貴志

●出身地 日南市
●趣味 ゴルフ、楽器演奏(ドラム)
●事業内容 世界6カ国(アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、フランス、日本)で展開する世界最大のテレビショッピングチャンネル。
365日、24時間生放送。日本国内の視聴世帯は3500万世帯。

(株)イーイノベーション
代表取締役社長

柳瀬 孝浩

●出身地 高千穂町
●趣味 ウォーキング、犬の散歩
●事業内容 ①IT技術者の派遣事業 ②業務系アプリケーションの受託開発事業 ③オリジナルパッケージの開発・販売 ④教育関連事業 ⑤行政の就労支援事業

物産振興部会

第十四回 宮崎の本格焼酎と郷土料理を楽しむ会

宮崎県在京経営者会議主催の「第14回 宮崎の本格焼酎と郷土料理を楽しむ会」は、平成27年9月4日（金）、東京千代田区九段のホテルグランドパレスで開催されました。

当日は約500人ほどが参加しました。同会の高山会長のあいさつのもと、稲用博美宮崎県副知事、湯浅米男宮崎産業活性化協会理事、渡邊眞一郎宮崎県酒造組合会長の祝辞があり、乾杯。会食、懇談となりました。

会場には、宮崎県産業活性化協会、より良き宮崎牛づくり対策協議会から協賛・出品頂いた宮崎牛とみやざき地頭鶏（じどっこ）はじめ、JA宮崎経済連から協賛・出品頂いた宮崎県産の野菜、各

会社から協賛・出品頂いた海や山の幸が並び、宮崎県酒造組合各社からの本格焼酎とともに参加者は舌鼓を打っていました。

また、会場横には物販ブース、観光ブースも設置し、宮崎のお土産やおび天の販売、観光パンフレットの配布等も行いました。

会場では、抽選会も行われ、当選者には知事賞として宮崎牛（目録）、東京事務所長賞として宮崎物産セット等が贈られました。

このほか、日南市出身の歌手Misa Chiさんの歌も披露され、盛会のうちを終了。参加者は焼酎などのお土産を手土産に帰路につきました。



第十四回 宮崎の本格焼酎と郷土料理を楽しむ会
主催 宮崎県在京経営者会議
後援 宮崎県・宮崎県酒造組合・宮崎産業活性化協会



求人・求職相談部会

第16回 求人求職説明会

本年度「求人求職説明会」は、7月16日（木）にハリウッドビューティ専門学校5階ハリウッドホールにて開催を行いました。今回は会員企業20社の採用担当の皆様が参加いただき、高校15校・大学1校の就職指導の教職員の方々と個別に面談が行われました。

宮崎県からは飛田教育長、長友学校政策課主幹、杉田宮崎県商工会議所連合会事務局長、鈴木宮崎県東京事務所長にもご参加をいただき、16回目を迎えたこの会への御礼のお言葉をいただきました。今回は参加企業として「宮崎に本社を持ち、東京に支社・支店を持つ」企業に働きかけを行い、数社にご参加をいただきました。東京で数年間就業の後に宮崎の本社に帰る、というプランは、地元志向の高まりと東京での経験の双方に憧れを抱く近年の学生たちにとって魅力的なものだということです。また、若年層の流出を防ぎたい県としても、こうした採用計画は新しいみやざき創生の根本である人材確保を支えるものでもあります。

時代の流れ、地元の要請に若干なりとも寄り添えたことを嬉しく思い、今後はさらにきめ細かな要望にこたえるべく情報収集に努めたいと思っております。

また、説明会終了後には同校最上階の応接会議室にて恒例の懇親会を開きま



した。宮崎の焼酎を片手に、宮崎という共通項を出発点として様々な会話が広がっていく良き時間が、成果として学生に持ち帰られ、あるいは他業種のビジネス交流となっていただけならば、当部会として大変嬉しいことでもあります。今後も多くの企業にご参加を賜り、また、この活動に対する皆様のご教示をいただけますようお願い申し上げます。最後になりましたが、猛暑のなかご参加・ご協力くださった会員企業並びに、関係企業の皆様方にあらためて深く御礼を申し上げます。



観光・ビジネス部会

第14回 宮崎観光・ビジネス交流会

「第14回宮崎観光・ビジネス交流会」は平成27年10月17日(土)～10月19日(月)の日程で、宮崎市・日南市を訪問いたしました。

眩しい晴天のもと、宮崎空港でお出迎えくださり、2日間の観光案内をはじめ細かなご配慮に満ちたお世話をいただいた日南市の職員の皆さんの温かな笑顔が、美しい自然と心優しい人の住む南国宮崎にやってきました！と実感をわかせてくれました。

最初の訪問先である青島神社では参拝の後、ご由緒や独特の自然環境について説明をいただきました。鬼の洗濯岩に囲まれ神殿から青い海を臨む景観は、はじめて訪れた参加者にとってはもちろん何度訪れても心洗われる素晴らしいものでした。

参拝後、昼食場所である南郷プリンスホテルまで貸切バスにて向かうあいだも、日南市職員の方の楽しいご案内と「日南でもめずらしいくらいの素晴らしいお天気」のおかげで素敵なドライブの時間となりました。

昼食後は海中遊覧船「マリンビューワー」に乗船、道の駅なんごう・港の駅めいっでは、豊かな自然の産物をた

くさんのお土産として日南海岸を満喫しました。

夕刻は飫肥城跡にて「飫肥城下まつり」前夜祭に参加後、懇親会場の「境鮪」へ移動し、日南市長をはじめとする地元の方々の歓迎をいただきました。

翌日は飫肥城下まつりパレードでしたが、実は、今回のまつりには特別な趣向がありました。小村寿太郎生誕160年にあたって企画された、小村の師である小倉処平の「里帰り」です。数年前の観光・ビジネス交流会の折に、当会会長が当時は荒れ果てていた小倉処平の自刃の地に参ったことを一つの契機として延岡で小倉の顕彰が進み、有志によって小倉処平の像がつくられました。今回の飫肥城下まつりに際して、可愛岳山中で無念の自刃を遂げた小倉処平の像がふるさとに戻ったのです。その魂が故郷に安らうよう振徳堂での神事を行った後パレードの先頭を飾り、飫肥の皆さんも、悲運の偉人の里帰りにたくさんの拍手を送っておられました。延岡からは神輿も参加し、当会会長は崎田日南市長などと共に輿に乗ってパレードに参加させていただきました。

(6面につづく)



パレード終了後は鶴戸神宮で参拝をいたしました。日向灘を臨むあかるい断崖の参道を歩き、千鳥橋・玉橋を超えて朱塗りの本殿にいたるドラマティックな美しさは、宮崎の観光資源の豊かさを象徴するもののひとつでしょう。

その後は宮崎市内の宮崎観光ホテルにて恒例のビジネス交流会が行われました。河野知事・米良宮崎商工会議所会頭など多くの地元の皆さまに歓迎をいただき、和やかに相互交流を行うことができました。こうした時間の中から、宮崎の活性化につながる新しいアイデアや機運が生まれてくることを願っております。

3日目は自由行動で各自思い思いのプランを楽しみ、午後の飛行機にて無事帰郷いたしました。当「観光・ビジネス交流会」は宮崎の各地を巡る観光とビジネス交流を主眼としておりますが、毎回訪問地では首長をはじめとする地元の方々の心づくしの温かな大歓迎をいただきます。美しい自然や懐かしい景観に出会うと共に、故郷の人々の深い優しさがたくさん思い出を揺り起こし、厳しいビジネスの世界を生きる会員の皆さまの大きな癒しとなってくれるものと思っております。来年も、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。



◇ 小倉処平

飢肥（現日南市）の生まれ、1864（元治元）年に藩命で京都に行つて藩の外交に当たり、後、藩校振徳堂の句読師（くとうし）（読み書きを教える人）・寮舎長にも選ばれた。処平の指導理念は世界雄飛を目指す進歩的なもので、生徒から尊敬を集めていた。間もなく江戸に出て、安井息軒の門人となり、陸奥宗光・谷干城（たてき）らと交流があつた。

明治に入ると、公費による長崎朗田学制度を藩主に進言し、1869（明治2）年には小村寿太郎、伊東益夫、田原億蔵を、自ら引率して長崎に留学させた。当時、大学南校（東京大学の前身）は、雄藩出身者が占められていたので、小藩からも学生を出す「貢進生制度」を同志とともに進め、実現させた。小村寿太郎も入学できて、後に大成する契機を得た。処平はこのころ文部権大丞（もんぶごんだいじょう）の職についていた。

1871（明治4）年に海外留学を命ぜられ、英国、フランスで政治や経済を学んだが、国内で征韓論決裂のことを知り急いで帰国、西郷隆盛・板垣退助らが下野すると、彼もまた飢肥に帰郷した。1874（同7）年佐賀の乱が勃発し、敗れた首領江藤新平らが

ひそかに処平を頼つて飢肥に潜入してきたのを、外ノ浦港から土佐へ逃亡させた。そのために彼は禁錮刑に服し、後、大蔵省七等出仕となった。

西南戦争が起こると、「日向の人心を鎮ぶしてくる」と唱えて帰郷したが、すでに飢肥士族300名が前線にあることに義を感じ、薩軍奇兵隊総監として転戦、和田越（現延岡市）の戦いで負傷し従容として自刃した。



平成28年 賀詞交歓会

平成28年1月29日（金）、「平成28年新年賀詞交換会」が、東京・千代田区隼町のグランドアーク半蔵門で開催されました。

高山会長の挨拶の後、来賓の河野俊嗣宮崎県知事、星野透宮崎県議会議長、矢野貞次宮崎産業活性化協会副会長のあいさつがあり、乾杯。約60人の出席者が親睦を深めました。

